山行報告書　　京都田辺山友会　　報告者　山下　　2015.6 月

山　名	横山岳・冠山	山行名	横山岳(余呉トレイル) ・冠山
ルート	6 月 6 日（土）白谷登山口ー（白谷本流）ー横山岳ー（東尾根）ー白谷登山口 6 月 7 日（日）宿ー（車）ー冠山峠ー冠山ー冠山峠ー（車）ー京田辺市		
山行日	6 月 6 日～7 日(土、日)	天　候	晴・晴れ
参加者	リーダー：　山下隆　　サブリーダー：佐坂茂美 男性（秋月、村上、若林）　女性（秋山、江平、染矢）、　合計：８名		

6 月 6 日　横山岳　コースタイム				6 月 7 日　冠山　コースタイム					
地名	時分	地名	時分	地名		時：分	地名		時：分
松井山手発	6:30	東尾根登山口 白谷登山口	15:14	宿	発	6:17	冠山峠	着	12:43
			15:50	冠峠	着	8:17			
白谷登山口着 発	8:18				発	8:33		発	12:58
	8:40	リトリート田倉「きらめき」（宿着）	18:10	冠山頂上	着	10:15	松井山手	着	17:15
太鼓橋	9:25				発	10:24			
五銚子滝	10:37			冠平(昼食)	着	10:45			
頂上　着	12:23				発	11:11			
発	13:00				着				

6 月 3 日には梅雨入り宣言が早々と出ていたので、数日前から予定日の天気予報を気にし始めるも、前日には降水確率 10～20%の予報となり、絶好の登山日よりとなる。市民秋山登山の下見も同日の計画と聞いていたので、善男善女へのご褒美となった。

(横山岳)

登山口近くの唯一の宿「長治庵」にカーナビをセットし、順調に白谷登山口に着く。しゃれた登山届箱に山行届を出す。箱の中に地図があり、太鼓橋までは無難なルートを計画していたが、×印が付いていて、歩き難いと想定していた白谷本流コースが○となっていた。駐車場横からすぐのこのコースに入る。横山岳には年間 2.5 万人の登山者があり、人気の山だそうです。地元の方々での今年初めての登山道の草刈り日と重なり、ルートが判り易く感謝しながら登る。谷筋に咲く花々に期待していたが、刈り取られていた。何度が渡渉し、見ごたえのあった滝で小休止しつつ、今年初めての標高差 800m を皆さんと頑張る。五銚子の滝からは更に急坂となり、道々の岩は濡れてスベリ易い。「ガンバレ残り 300m」の標識からが長い。残り 100m の標識から頂上まではなだらかとなり頂上に着く。下山道の東尾根コースはなだらかなパノマラの稜線下りで、遠くに雪の白山もかろうじて見え、1km 以上続くブナ林は日本一で幸せ気分を堪能出来た。

宿の関係で翌日の朝・昼食や飲料の入手を予定していたコンビニが工事中だったので、入手に手間取る。宿は廃校跡を改造した作りで、山小屋なら 20～30 人は詰め込まれる教室部屋に我らは 3 人・5 人と布団を敷き、隣のイビキは聞こえない間隔で熟睡した。宿では中学校の野球部合宿の子供達と同宿となり、スポーツ少年達のきびきびとした動きに感心したり、先生達と交流したり、母親達が作ったカレーをご馳走になったりと交流できた。

（冠山）

いつかは行きたいと思っていた冠山の機会が参加者の協力でようやく実現した。冠山峠を通る道は冬季閉鎖されていて、例年 5 月末から 6 月初めにかけて開通する。地元に道路事情を聞き計画した。この山は福井県と岐阜県の県境にあり、特に福井県側から峠までは狭く、マイクロバスは薦められないとのこと。慣れた自家用車での運行とし、ＳさんとＷさんのお世話になった。宿から約 2 時間で 1050m の冠山峠に着く。頂上は雲が掛っていて、心は少し曇る。歩行距離は 4km, 標高差 200m なので、甘南備山に似たようなものだと思っていたがとんでもなかった。道中のアップダウンも数ケ所あり（後で地図をキチンと見ていればチャント読めた）、頂上手前の 20m 位の岩場の通過時は想定以上に厳しく「3 点確保を守れ」「ここに足を置いて」「こちらのルート」と指導の声が飛び、Ｙケントレを思い出す。運よく、頂上では雲もはれ、360 度の眺望を楽しめた。風も強く、狭いので、早々と後続の方々に頂上をゆずる。日光キスゲが咲く笹の平地で強風を避けながら、短めの食事を摂り、来た道を峠まで戻る。すれ違う登山客も多い。一本道なので迷う事は無い。ピンクの空木やアザミや高山植物、谷間には雪渓も残っていた。峠に戻った時は天気は更によくなり、登り始めには隠れていた冠山頂上が見え「日本のマッターホルン」を堪能することができた。岐阜県側の下り道は福井県側より少し広く、ガードレールもあり、道路状況はマシだったが、カーブも多く、運転手は緊張の連続だった。途中の風呂で汗を流す計画だったが、その場所を見過ごしてしまい、木之本に出て、予定より 1:45 分早く松井山手に無事に帰って来た。

天気に恵まれ、参加者の協力と慎重な一歩一歩の歩みで全員無事に下山出来、思い出深い山行が達成できたとの思いでした。御協力ありがとうございました。

ヒヤリハット；ありません。

感想文横山岳

関西百名山　　**横　山　岳 1132m**

2015.06.09　　秋月　康敏

横山岳は由緒ある山岳信仰の霊場として古くから栄えた処であり、経の滝と五銚子の滝の間に延喜式内社の横山神社あり、御創立は推古元年（593 年）･･･と、登山口の案内板に記載してあった。又、東峰のブナ林は近江最大級という。昨日までの雨上がりで今日はブナ林歩きがうれしい。

「横山岳は登ってると思うのだが殆ど記憶に残っていない」そんな話をしながら登山口を出発した。太鼓橋手前の林道にたどり着いてやっと思いだした。「やっぱり来ていたわ！」このガードレールを跨いで後の人を引張りあげたことを思いだした。帰ってから写真を取り出して確認すると、登山口も五銚子の滝も全部撮っていた。記憶が消えていたのは困ったもんだ。前回登ったのは 2011 年 11 月 9 日、あの時は背中骨折故障後 4 ヶ月でかなりきつかった。写真を見ても楽しそうな顔をしていない、ヤブコギできびしい事のみ多くて記憶に残らなかったのだろう。今日は、地元の人が草刈りをしてくれてたので雨上がりでズボンの水濡れもなく、歩きやすくて助かった！こんな急坂の草を刈ってくれる方にお礼を云わないと･･･すると近くで声がした、見ると草刈りの方だった。既に上の方へも 4~5 人入っているとの事だ。五銚子の滝：水量は多いし草刈りはしてあるし、加えて近辺の古木など片付けしてある。その方達にお礼を云いながら諸々の話を聞いた。

五銚子の滝

今日は楽しくチョウシのいいこと話ながら歩こう･･･と誰かが云った。五銚子滝だから５ツは云わないと･･･、私は生真面目すぎるからチョウシのいいことは出ないよね･･･。4 時間で山頂に着いた、12 時半だった。昼食をとって東峰へ向かった。前回は西峰を歩いた。ブナ林の中をルンルン気分で散策だ。あっちこっちで素晴しいブナ林を観て来たが、近江最大級と云われるだけのことはあるね。途中でブナの木に耳を当てて聞いてみた。「ふん、ふん！よく分った！そうするわ！」と言って、木から離れて「ブナに聞くとしっかり飲んでもいいよと云ってた」というと、山下さんが再度ブナに聞くと「明日があるので 8 時で終わりなさいと云ってた」と言った。その一件で私がチョウシのいい事云うので初日の感想文の担当にされた。そんなことしてもいいのかな？他にも何かチョウシのいい事云ってたそうだが、もうとっくに忘れてしまっている。

近江最大級のブナ林を一跨ぎ

だから「すぐに忘れているので感想文は他の方に･･･」と頼んだが、口は禍の元で観念せざるを得なかった。白谷登山口から標高差 900m、例会案内では★★だったが、充分その値打ちはあるね。草を刈ってくれていたので、前回ほどのヤブコギが無かった分は助かった。
私達は小学校の廃校跡「リトリートたくら」を宿にしており、中学生の野球部が合宿で来ていた。風呂が一緒になり、彼らの裸姿はピチピチだが私たちはブヨブヨだ。色々話をすると明るく応えてくれた。中学 3 年生は私より背が高いのもいるし、まだ可愛らしい顔をした子もいる、多分 1 年生なのだろう。「3 年生は怖いか？」と聞くと「面白い、楽しい！」と応えた。「先生・監督は怖いやろ」と聞くと、「怖くない、面白い･･･」という。厳しく躾けているのだろう、言葉もキビ

キビしているしギャーギャー騒がない。中学 1、2、3 年生 29 名の野球部員で、夕食は 2 合半食べないと開放してくれない。完食した者から開放されている。最後は 2 人残っていたが食べ終わったら食堂を出た。聞くと「今から素振り 500 回やるんだ！」と明るく応えた。気持ちいいね！お母さん達が来ていたので聞くと「厳しいけど楽しんでスポーツしている」「食事もイジメでなく成長の糧だから･･･」母親達は子供達に話かけない、そういうルールなんだろう。ただ完食するのを見つめていた。彼らが全員出てからお母さん方のカレーライスを分けてもらった。おいしくいただいた。私達もお酒と食事と追加のカレーライスでカロリーは 2 合半に匹敵したかもしれない。子供達をみて、村上さんと話した「私達の 60 年前なんだね･･･」
部屋に帰ってゆっくり飲みながら歓談･･･と思ったが、ブナとの会話に応えて早々に就寝した。
明日は「冠山」日本のマッターホルンと言われているそうだ、口にチャックで静かに歩こう！

冠山登山(27 年 6 月 7 日)の感想文

前日の横山岳登山(1,132m 高低差 800m / 8.5km) に比べると、本日の冠山登山は (1,257m 高低差 260m / 4km) 昨日横山岳の疲労を考慮して頂いたリーダーのエントリーへの配慮に感謝感激。 予定通り 6:00am 過ぎ宿泊地を出発。
前日 横山岳下山中には 酒量に関して奥様に相談できず? ぶな の大木と晩のアルコール量の限度に関して会話され飲酒量を決められる程 楽な気持ちで望んだ冠山 車内の会話も甘南備山程度の登山と理解 話も弾んでいた。

約 1,000m の標高まで車移動も 20km 程の距離を一時間近く掛けないといけない難道路。ガードレールも無く片側断崖絶壁で道幅 3.0m 程の自動車道。後部座席の谷側に乗られた A さんは周りの景色を見る余裕も無くアイマスクを要求される程緊張の連続。対向車と遭遇する事が無かったのは幸い。正直な所 秋 紅葉時期は最高の場所と思われるが、二度と車では走りたく無いコースとして頭にインプット済み。精神的に先ず疲れた。8:00am 過ぎには 冠山登山口に二台無事到着。 準備運動を終えて、ルンルン 気分で 8:30am 冠山登山口をスタート。ガスも発生歩けど歩けど登っては下り 下っては登りの連続で中々標高差を縮める事ができず 約 60 分歩いて(冠平手前付近)やっと高低差が縮まった。待ち受けたのは岩場直登(ロープ場あり)全員 10:15 頃登頂。個人的には数度 Y懸にて指導を受けた事が大変役に立った約 105 分のコースであった。今想えば標高差は 4～500m はあった様に思う。

コース設定に余裕あり冠山は高山植物の宝庫とも言われ(開花時期は 6/中以降) 鑑賞しながらの登山であった。 何とありがたや 登頂するとガスも何処かに 流れ視界も広がったが 地元の人気山なのか沢山の登山客で長く頂上に居座る事も出来ず 10 分程で下山開始。難関ルートを 30 分程掛けて冠平まで下山昼食後 12:43 難ルートにもかかわらずヒヤリハットも無く全員無事に下山。 登山時には全く見えなかった冠山全貌も下山中何処からでも見えて感動。

帰りの車ルートも登りコースと違い精神的に安心して安全走行が出来た。
17:00 過ぎには松井山手へ全員無事到着。 お疲れ様でした。 6/8 若林(記)